

RI会長



2025-26年度会長

フランチェスコ・アレツツォ

ラグーザ・ロータリークラブ(イタリア)

画像

2025-26年度

「よいことのために手を取りあおう」

ロータリー会員は、人と人とのつながりがもたらすパワーを活かして、新会員を増やし、奉仕プロジェクトで協力し、世界的なインパクトをもたらしながら、前向きな変化を生み出しています。

矯正歯科の開業医で、シチリア島でエキストラバージンオリーブオイルを生産する農業企業を所有。

パドヴァ大学卒業。イタリア、ヨーロッパ、アメリカの矯正歯科協会のメンバーであり、イタリアとヨーロッパの舌矯正歯科協会のメンバーでもある。カリアリ大学歯学部で舌矯正歯科の修士号も取得。

ラグーザ県のNational Association of Italian Dentistsの副会長を務め、National Trust for Italy創設者として同団体で7年間ラグーザ県を代表。

シチリア島モンティ・イブレイ地域での農業企業の所有に加え、この地域ので良質な石油生産を管理・規制するコンソーシアムの管理評議会の副会長を務める。同地域に二つのブティックホテルを所有。趣味は現代美術鑑賞とオペラ。

36年来のロータリー会員であり、合同戦略計画委員会副委員長、RI理事、2023年メルボルン国際大会委員長、ラーニングファシリテーター、地区大会での会長代理などを歴任。

パートナーで、観光業界の起業家であるアナ・マリア・クリシオーネさんとの間に二人の娘さんと二人のお孫さんがいる。娘のラファエラさんはロータリー青少年交換で米国フロリダ州に1年留学。アナ・マリアさんと共にロータリー財団のベネファクターとメジャードナーとなっている。

濱野良彦（福岡東南RC）

画像

ごあいさつ

世界を恐怖に包んだ2020年からのパンデミックを乗り越えて、世界のロータリークラブが再生しようとしているこの時期に、2025-26年度第2700地区ガバナーに就任しました福岡東南ロータリークラブの濱野良彦でございます。また、国際ロータリーは“Grow Rotary”を提唱し、今年度から複数年度制を導入し、国際ロータリーの新時代の始まりの年にガバナーに就任する重責を感じながらご挨拶申し上げます。

2025年度RI会長メッセージは「UNITE FOR GOOD: よいことのために手を取りあおう」です。そしてガバナーメッセージを「少しの成長から始まります」とし、サブ・メッセージは「1.01で成長、0.99で衰退」です。RI会長が明言した「クラブは成長するか衰退するかどちらかである」に依って、日々のほんの少しの、それが1/100の前向きな言動であれば、それを積み重ねることで成長という結果をもたらすことを第2700地区の会員の皆様方に提唱してまいります。

新しい潮流を求めて

2023年10月のRI理事会で、2025-26年度から「RI会長の新しいイニシアチブを廃止することに同意する」と決まり、RI会長の「主導権」を廃止することを意味します。この時期に私はGNデジグネットに就任し、2025年度からRI会長のテーマがなくなり、テーマがメッセージに変わり、イメージロゴもなくなることへの疑問や不安を抱えることになりましたが、2025年1月の国際協議会に出席しデ・カマルゴRI会長エレクトの講演ですべての疑問や不安が解消されました。

つまり2025年度からは、これまでの伝統的な考え方の単年度制の良いところを継続しつつ、複数年度制を導入することで、ロータリーの活動の成長と進化を求めることになりました。これが新しい潮流となります。

リーダーシップの継続性とRLIへの積極的参加の要請

吉田年度に提唱された2024-25年度から3年間の段階的な行動計画を設定する「3-Year Rolling Goals」は、複数年度制の導入の始まりであり、各年度のクラブリーダーが話し合い、相互の考え方を理解し相互支援しながら、単年度制の考え方を成長進化させる取り組みです。この制度の導入によりリーダーシップの継続性が重要となり、これまでの単年度制ではできなかった大きな成長が期待されます。

リーダーシップの体得には、ラーニングプログラムRLIでの新しい体験を通してstudy(勉強する)からlearn(習得する)への成長を体験することが必須です。リーダーシップの育成のためのプログラムだけでなく、会員個人のロータリアンとしての実力が身につく、「会員力」の強靱化にラーニングプログラムRLIは、実力を発揮すると期待しています。新しい潮流の始まりが「3-Year Rolling Goals」となります。

公共イメージ向上とエンドポリオ運動への再挑戦

国際ロータリーとロータリークラブは多額の浄財を用いた奉仕活動はロータリアン仲間同士には理解できています。その一方で、社会的にはロータリーは、経済的に裕福な人たちの社交的集団と見られています。ロータリアン自身の考え方と一般社会が見るロータリーの評価との間には大きな乖離が長年存続してきています。公共イメージ向上の推進のために新しい活動を展開することが求められます。

「エンドポリオ」も完結までには「もうチョット」のところで停滞していますが、公共イメージ向上推進には重要な役割を果たしています。「エンドポリオ」と「平和活動」は関係していますので、「平和」を求めていくロータリー活動がなければ、「エンドポリオ」も完結できないと、考えるべきで、「平和活動」である「ロータリー平和フェロー」のことから始まる「平和」への関心を高めていくことにより、「エンドポリオ」運動への再挑戦を行います。

「4つのテスト」再認識の推進

ロータリーは、これまでの良いところを継続しながら、新しいロータリーの様式を目指しています。これを”Grow Rotary”の延長線上にあるので、私たちロータリアンは、「4つのテスト」を含む基本理念を変えることなく大切にしていることはロータリアンのプライドであり、ブランド力です。すなわち120年以上続くロータリーの本質や傾向や方針を変えることなく、世の中の流れに順応した組織作りが行われ、その中心に「4つのテスト」を上手に使う新しい発想が求められます。

ガバナーとクラブ会員との強い連携を求めます

多くの会員の皆様方にも2025年度からのロータリー活動に疑問や不安をお持ちと推察できます。ロータリーの伝統的な良いところを継続しつつ、新しい潮流に乗ることで、皆様との強い連帯によって第2700地区の未来像を創造できると確信しています。2025年度の新規事業は、(株)ラブFM国際放送局と契約し、毎週1回15分のラジオ放送を通して、公共イメージの向上を企画しました。1年間よろしくお願いいたします。

福岡エアポートロータリークラブ 会長方針

会長メッセージ「空港から世界へ 福岡から未来へ」

福岡エアポートロータリークラブは、国際ロータリー第2700地区において13年ぶりに誕生する新クラブです。しかし私たちは、「新しいクラブができた」という事実だけに価値を置いているわけではありません。

このクラブは、福岡という国際都市の玄関口から、ロータリーの新しいあり方を世界と未来に問いかけていく意志をもって生まれました。

空港は、人や文化が交差し、誰かの挑戦が静かに始まる「出発点」です。その場所を拠点とする以上、私たちの奉仕もまた、地域だけで完結するものではなく、世界や未来へと開かれたものでなければならないと考えています。そう考えると、奉仕とは単なる善意ではなく、「自分がこの地球に生かされてきたことへの — 地球に対する家賃の支払い」であると捉えるべきではないでしょうか。

地球に対する家賃を奉仕という形で行動に移す—— その覚悟をもって取り組んでいけたらとおもっています。

I
恩送りと
「与える奉仕」の
確立

私たちは、奉仕を「生活に必要なお金や家族との時間を削ってまで行うこと」とは考えていません。まず自分の生活・家庭・仕事を整え、その上で生まれた余力を社会へ渡していく。その余力が別の誰かの未来へつながり、また次の誰かへ受け渡されていく——

そうした“めぐる奉仕(循環型奉仕)”を大切にします。

ここで大切にしたいのは、「尽くすこと」と「与えること」は似て非なるものだ という認識です。尽くす行為は、ときに自分を削り、相手に重さや負担を生みます。一方「与える奉仕」は、自分が整っているからこそ自然に流れ出るものであり、相手にも、自分にも無理を残さない形で広がっていきます。

それは、直接返してもらうことを前提にしない恩送りの姿勢であり、世代や地域を越えて続いていく循環としての奉仕であると考えています。

作家・三浦綾子さんはこう綴っています。

「一生を終えてのちに残るのは、われわれが集めたものではなく、われわれが与えたものである。」

この思想を、クラブの中心に据えて活動を行ってまいります。

II

創立初年度 「始める年」 ではなく 「形づくる年」

2025-26年度は、このクラブが今後どのような価値観・考え方で歩んでいくのか、その土台を形づくる年です。
そのために本年度は、次の4つを重点方針として取り組みます。

1. 「一業種一社」の徹底による 持続可能な土台作り

同じ業種が競い合う環境からは、落ち着いた奉仕は生まれません。
異業種どうしが補い合い、まず互いの事業を強くする。
その先に初めて、長く続く奉仕が実現します。
「一業種一社」は誰かを排除するためではなく、奉仕を生み出す土台を守るための考え方です。

2. DXの積極導入 「誰も取りこぼさない」ための技術

DXは便利さのためではなく、「関わりたい人をこぼさないため」の工夫でもあります。時間・距離・働き方・言語が違っても、同じ土俵に立てるようにするための仕掛けともいえるでしょう。
福岡エアポートロータリークラブでは、アプリを活用した効率的なクラブ運営及び、対面とオンラインを併用し、誰もが無理なく参加できる場を整えていきます。

3. 寄付 — 「善意」ではなく 「続ける仕組み」へ

ロータリー財団・米山記念奨学会への寄付は、余裕のある人だけが時々行う善意ではありません。クラブ全体で未来への責任を共有する営みとして、会費に含める形で仕組み化します。
思いついた時だけではなく、無理なく・偏りなく・確実に積み上がる支援を実現します。
この考え方の背景には、私自身が深く尊敬しているホシザキ株式会社 取締役会長 坂本精志氏(名古屋名東RCチャーターメンバー)の姿勢があります。
坂本氏は、お父様が篤志家の方からの支援によって進学
の機会を得たという事実を出発点に、その「受けた恩」を社会へ返すことを終生の責務として位置づけ、ロータリー財団・米山奨学会への支援を長年にわたり継続してこられました。
さらに現在は、「寄付文化を広げるには、隠すのではなく示す側に立つことが必要だ」との信念から、名を明かして寄付を行うことで、寄付文化そのものの形成に挑んでおられます。

4. フレンドシップより、フェロウシップを

ロータリーは親睦団体ですが、「仲良しであれば良い」という意味ではありません。
食事や飲み会だけで育つのはフレンドシップ(好意)であって、共に考え、共に行動し、共に奉仕する時間の先に生まれるものがフェロウシップ(同志性)だと考えます。
その基盤として、会員全員のプロフィールカードを作成・共有し、「誰が何を大切にしているか」が見える化します。

III

福岡空港から 世界へ展開する 奉仕の六つの柱

- 1.職業奉仕を基軸とした地域及び国際貢献
- 2.空港周辺地域(志免町・粕屋町等)への社会的支援(=ニーズにあわせた具体的支援)
- 3.次世代の育成と若手リーダー支援
- 4.国際理解と平和の推進(=グローバル補助金事業へのチャレンジ)
- 5.SDGsの実践による持続可能性の追求
- 6.仲間を信じ、助け合う文化の定着

結び

本年度は、このクラブの歴史の第一歩を刻む年です。恩送りを胸に、与える側として堂々と立ち、互いを支え合う仲間として、この福岡から未来に残る文化を実装していきます。

理学博士・佐治晴夫氏はこう述べています。

あなたの『これから』が、あなたの『これまで』を決める。

人生は、これまでの出来事で決まるのではなく、これから何を学び、どう生きていくかによって、すでに過ぎた過去の姿さえ、別の意味へと変わっていきます。

空港から世界へ。 福岡から未来へ。 ここから私たちのロータリーは始まります。

福岡エアポートロータリークラブ 幹事方針

創立幹事 入江良太郎

幹事テーマ「つなぐ力で、動き出すクラブへ」

幹事メッセージ

本年度、福岡エアポートロータリークラブは、新たに歴史を刻み始める創立期を迎えます。
会長方針「空港から世界へ 福岡から未来へ」のもと、私たちはロータリーの理念を地域と世界に発信していく第一歩を踏み出します。

幹事の役割は、クラブの理念と実務をつなぎ、会員一人ひとりが気持ちよく奉仕に専念できるよう支えることです。

そのために、「正確・迅速・誠実」の三原則を大切にしながら、クラブ運営の基盤を整え、信頼される組織づくりを進めてまいります。

幹事重点方針

1. 創立クラブとしての基礎体制の確立

初年度は、会則・細則・例会運営・会計・記録・会員管理など、すべての仕組みを整える重要な時期です。

幹事として、正確な記録と透明な情報共有を徹底し、誰が見てもわかる運営体制を構築します。

「ルールが人を縛る」のではなく、「ルールが人を守る」クラブ文化を育てます。

2. DXを活用した効率的で開かれた運営

会長方針に基づき、クラブアプリやオンラインツールを積極的に導入し、情報伝達・出欠・会費管理をスムーズにします。デジタルの力で「誰も取りこぼさない」クラブを目指し、時間や距離に縛られない参加環境を整えます。

3. 会員間の絆を深める情報共有

創立期の仲間づくりは、クラブ文化を形づくる第一歩です。

会員プロフィールカードの作成・更新を通して、互いの理解を深める場を支援します。

例会・理事会・委員会の記録や写真を定期的に共有し、温かいコミュニケーションの橋渡し役を担います。

4. 信頼される財務・記録管理

幹事は、会計と並びクラブの信頼を支える重要な役割です。すべての支出・決定を記録に残し、報告・承認の流れを明確化します。また、寄付やロータリー財団支援の履歴を整理し、将来に引き継げる運営資料を整備します。

5. 「恩送り」を支える仕組みづくり

福岡エアポートロータリークラブの理念である「恩送り」を、日常の運営にも根づかせます。たとえば、新会員へのフォローアップ、行事での役割分担、先輩会員からの知識共有など、小さな“与える行為”を仕組みとして積み重ねていきます。

結び

幹事は、縁の下でクラブを支える役職でありながら、クラブ全体の「空気を整える」要でもあります。会員一人ひとりの声を大切にし、笑顔と誠実さでクラブをつなぎます。

空港から世界へ　そして、ここ福岡から未来へ。

新しいロータリー文化を、確かな運営と温かい連帯で形にしていきたいと思います。

以上

クラブの特徴



福岡エアポートロータリークラブは、日本でも珍しい“空港を活動拠点とする”クラブとして、空港周辺地域の清掃や環境保全、観光客との文化交流、国際理解やSDGsに資する取り組みなど、都市・観光・国際性が融合した空港ならではの奉仕モデルを目指しています。例会は第1・第3水曜日の昼に行われ、通常より短い45分間に凝縮されており、多忙な経営者や専門職でも参加しやすいスタイルとなっています。また、出張や県外居住などで移動が多い会員でも参加できるよう、対面とZoomを併用したハイブリッド方式を標準化し、時間や距離に縛られず「誰一人取り残さない」クラブ運営を実現しています。さらに、すまっぼんを活用したクラブ専用プラットフォームやペーパーレス化を進める一方で、GMOあおぞらネット銀行の法人口座を開設したことにより、資金の取り扱いを事務局任せにせず、会員自身が透明性をもって管理し、入出金を迅速に行える体制を整えることができました。

こうした新しい形のロータリークラブを実現するため、本クラブは国際ロータリー第2700地区において13年ぶりに誕生した新クラブとして、地区で初めてスポンサークラブを持たずにゼロから立ち上げられました。創立チャーターメンバー24名が理念に共感し、自らの意思で集った“意思でつながるクラブ”としてスタートしています。その理念の中心にあるのが、「恩送り」と「めぐる奉仕（循環型奉仕）」そして「地球に対する家賃」という三つの価値観です。誰かから受けた善意や恩を、その相手に返すのではなく次の誰かへと循環させていく“恩送り”の精神を土台にしつつ、奉仕そのものを社会の中で巡らせていく「めぐる奉仕」を重んじており、見返りを求めることなく、社会の側に自らの価値を流し続ける姿勢を大切にしています。こうした理念のもと、月2回・昼開催・45分完結の例会、Zoom併用、そして月額15,000円の明朗な会費体系など、仕事・家庭・地域活動と両立しやすい仕組みを整え、「忙しい人ほど参加しやすいロータリー」を実現していることも大きな特徴です。

創立

創立年月日

2025年12月3日

RI承認

2025年11月5日

認証状伝達式

2026年1月21日

創立年度のRI会長

フランチェスコ・アレツツォ

創立年度のガバナー

濱野 良彦

チャーターメンバー

24名

氏名	事業所	氏名	事業所
青屋信作	(株)福岡MAコンサルティング	田村志朗	(株)梓書院
入江良太郎	(同)Ryoma	長島ジャスティン	(株)QUALITY
上村寿映明	うえむら税理士事務所	仁泉浩	やぐらもんグループ
釘丸浩一	mairu(株)	根本和幸	デザイン グレイス
桑野智彰	(株)クワノ	藤川秀幸	学校法人 藤川学園
古賀清彦	(株)おお蔵ホールディングス	別府吉範	アイラックス 株式会社
舌間陽子	(株)アンジュブラン	松尾陽子	MTO社会保険労務士法人
清水芳枝	(株)ジョブ・システム	宮崎由里	株式会社 New Wind
祐恒竜也	(株)済々社中	宮島大介	グラムRGK(同)
竹下誠雄	(株)レジオン	毛利定夫	(株)インターネットイニシアティブ
武田啓詩	ケルサス社会保険労務士事務所	山田健治	(株)willプランニング
竹野孔	(株)タケノ	吉野大輔	吉野宮下法律事務所

会員状況(2025年12月1日 現在)

会員数	25名		
2025年12月～	入会者 1名	退会者 0名	
会員年齢構成	51.7歳	80歳以上	0名
		70歳以上	2名
		60歳以上	1名
		50歳以上	10名
		40歳以上	10名
		30歳以上	1名

会報

週報

例会ごとに発行、会員およびビジターにデーターで配布

月信

会員共有ツールにて配信

ロータリーの友

毎月配布

クラブ例会

例会	第1・3水曜日 11:15～12:00
例会場	福岡市博多区下臼井767-1 福岡空港国内線ビル3階 竹乃屋 福岡空港店
事務局	福岡市博多区千代3-2-1 (株)梓書院内
T E L	092-643-7075
E-mail	farc@2700rid.com
理事会	不定期都度開催
クラブ協議会	2026年1月7日 活動計画・方針(全員参加) (ガバナー補佐訪問)
	2026年6月3日 実績報告(全員参加)
年次総会	細則により12月第3水曜日

会費

入会金	20,000円
年会費	180,000円

内、ロータリー財団150ドル ポリオ30ドル
米山記念奨学会17,000円 含

クラブ管理運営委員会

活動計画

委員長 武田 啓詩
副委員長 宮崎 由里

1. 例会のスムーズな運営

- 役割が偏らずに、楽しく開催できるような仕組みづくり
- 来賓、卓話者への座席誘導

2. 卓話者の管理

- 今年度に関しては会員卓話を中心に行う

3. 夜間懇親例会 年1、2回の計画、運営

- 夏と冬開催予定。新しいクラブのため会員同士が仲を深められるように

4. にこここ（クラブ運営に寄付）

- 会員の皆様へお声かけ

予算 110,000円(内訳)

●睦委員会 50,000円 ●プログラム委員会 30,000円 ●SAA 30,000円

会員増強員会

活動計画

委員長 藤川 秀幸
副委員長 祐恒 竜也

1. 職業分類表の更新作業を実施し、クラブ構成の適正化を図る。
2. 入会審査基準および審査フローを統一し、透明性の高い入会プロセスを整備する。
3. 見学希望者アテンド担当制を導入し、見学者対応の質向上を図る。
4. 会員増強方針6項目(数値目標は設けず、自然増を目指す方針)の実行に取り組む。
5. 候補者リストを作成し、隔月でクラブ内共有を行う。
6. オープン例会(ゲスト同行例会)を開催し、入会機会の創出を図る。
7. 炬辺会合・メンター制度を運用し、新入会員の定着を促進する。
8. 年1回の会員アンケートを実施し、クラブ運営改善に活かす。

予算 10,000円(内訳)

- 見学者向け案内資料印刷費 3,000円
- オープン例会案内資料作成費 2,000円
- アテンド担当カード・案内カード作成費 2,000円
- 候補者リスト管理ファイル等備品 1,500円
- メンター制度・新入会員向け説明資料印刷費 1,500円

公共イメージ委員会

委員長 竹下 誠雄
副委員長 毛利 定夫

活動計画

1. クラブ公式ホームページの制作・運用

福岡エアポートロータリークラブ公式ホームページを新規に制作し、設立後できるだけ早い段階で第1ステップを公開する。その後、数ステップに分けてコンテンツを拡充し、週報・例会報告・行事案内等を継続的に更新することで、常に最新情報が掲載された「動いているホームページ」となるよう運用体制を整える。

2. 会員向けアプリ「すまっぼん」の管理・更新

クラブ運営の効率化に資する会員向けアプリ「すまっぼん」について、情報の更新および管理を行う。ホームページと同じ内容を可能な範囲で反映させることで、情報発信の一元化と会員の利便性向上を図る。

3. SNSを活用した対外的な情報発信

Instagram、Facebook等のSNSアカウントを管理・更新し、奉仕活動をはじめとしたロータリー活動や例会の様子を都度公開する。地域社会や関係者に向けて、福岡エアポートロータリークラブの存在と特色が伝わるよう、写真や文章の質にも配慮しながらタイムリーな情報発信に努める。

4. オンライン決済システム導入によるキャッシュレス化推進

ニコニコ箱をはじめとしたオンライン決済システムを導入・整備し、クラブ内の支払いをキャッシュレス化することで、会計処理の効率化と会員の支払い利便性の向上を図る。DX推進の一環として、運用状況を確認しながら随時改善を行う。

5. マイロータリー登録100%達成に向けた取り組み

マイロータリーへの会員登録率100%を目標とし、原則として入会時に登録を行う運用とする。未登録会員に対しては、例会前後等の時間を活用して個別サポートを行い、登録促進を図るとともに、マイロータリーの活用方法についても丁寧に説明し、ロータリー理解の深化と会員のエンゲージメント向上に繋げる。

6. DX推進によるクラブ運営のデジタル化と継続的改善

DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の窓口として、会員から広くデジタル活用に関する提案・要望を随時受け付ける。その都度、内容を検討し、必要に応じてデジタルツールの導入・見直しを行うことで、クラブ運営全体のデジタル化と業務効率化を進め、国際都市・福岡の玄関口にふさわしい先進的なクラブ運営体制の構築を目指す。

予算 120,000円(内訳)

●DX推進経費 115,500円(ホームページ作成・維持管理等) ●すまっぼん管理費 4,500円

ロータリー財団委員会

委員長 桑野 智彰
副委員長 宮島 大介

活動計画・内容

2025-26年 度RI会長メッセージである「よいことのために手を取り あおう」及び2700地区ガバナーメッセージ「少しの成長から始まります」サブ・テーマ「1.01で成長、0.99で衰退」に基づき行動します。年2回開催される「地区ロータリー財団セミナー」に参加します。

内容を皆様に情報共有させて頂き、財団活動への理解と寄付へのモチベーションを深めて参ります。

予算 0円(内訳)

奉仕プロジェクト委員会

活動計画 本年度内に、奉仕活動を実施します。

委員長 山田 健治
副委員長 別府 吉範

活動内容

福岡空港内に例会場を設置していることに基づいて、空港内に関わる奉仕活動を基本とします。どのような活動を実施することが空港で働く人のためになるか、空港を訪れる人のためになるか、奉仕の観点より空港関係者や各テナント企業の方へアプローチを行い、積極的な話し合いを行い、プロジェクトを計画・実施します。計画として、「空港周辺のゴミ拾い」「空港内に花壇設置」「空港内に掛時計設置」等を想定します。

予算 0円(内訳)

福岡エアポートロータリークラブ

11月23日2025年

2025-2026年度 理事 役員 委員会 一覧表

理事 役員	会長	田村 志朗	直前会長	
	幹事	入江 良太	会長エレクト	田村 志朗(連続)
	SAA	青屋 信作	創立理事	藤川 秀幸
	会計	上村 寿映明	創立理事	桑野 智彰
	副会長	会長ノミニ予定者	創立理事	毛利 定夫
			経理収納	松尾 陽子

クラブ委員会

氏名		委員 氏名	
クラブ管理運営	委員長	武田 啓詩	青屋 信作
			竹野 孔
	副委員長	宮崎 由理	毛利 定夫
			釘丸 浩一
			仁泉 浩
			舌間 陽子
			尾松 準

・会場設営 ・飲み物注文 ・出席者管理 ・Web接続 ・カメラ撮影 ・週報作成 ・司会 ・家族懇親会
 ・卓話(計画準備) ・プログラム *主に例会の会場設営全般

会員増強	委員長	藤川 秀幸	田村 志朗	清水 芳枝
	副委員長	祐恒 竜也	毛利 定夫	根本 和幸

・会員増強 ・テーブル会 *主に会員増強のため、広報活動 会員の維持拡大

公共イメージ	委員長	竹下 誠雄	藤川 秀幸	舌間 陽子
	副委員長	毛利 定夫	長島 ジャスティン	

・ホームページ管理運営 ・DX推進 *主にHP・SNSを活用し、クラブの発展のための広報活動 DX推進

ロータリー財団	委員長	桑野 智彰	山田 健治	入江 良太郎
			吉野 大輔	古賀 清彦
	副委員長	宮島 大介	上村 寿映明	

・ローター財団研修会 ・ポリオ活動啓発 ・地区補助金事業 *ロータリー財団への支援活動

奉仕プロジェクト	委員長	山田 健治	入江 良太郎	宮島 大介
	副委員長	別府 吉範	吉野 大輔	古賀 清彦

・社会奉仕事業の計画 ・青少年奉仕 *主に社会奉仕・青少年奉仕・職業奉仕 の活動計画

	委員会	役職	氏名
地区委員			

福岡エアポートロータリークラブ 予算書

2025年12月～2026年6月

<収入の部>

科 目	前年度実績	25-26年度予算	人数	前年度差異	備考欄
前年度繰越金		¥0			
入会金		¥0			
会 費		¥2,520,000			24名×月額15,000円×7か月
雑収入	ビジター料	¥30,000			メーキャップ費一人1,000円×月5名×6か月 ※予測値
	特別徴収金	¥0			夜間例会 飲食費等
	預金利子他	¥0			
	小 計	¥0			
寄付金・支援金 等					
ニコニコ		¥180,000			月30,000円×6か月 ※予測値
合計					

<支出の部>

科 目	前年度実績	25-26年度予算	人数	前年度差異	備考欄
分担金	加盟金		24		創立時に払い込み済
	人頭分担金	¥146,616	24		半期 41ドル×24名 ※1ドル=149円換算
	規定審議会追加費用	¥3,576	24		半期 1ドル×24名 ※1ドル=149円換算
	地区資金	¥120,000	24		下期5,000円×24名
	地区大会等分担金	¥120,000	24		年1回 ※半年分
	ガバナー月信	¥14,400	24		1号100円×24名×6か月
	国際青少年交換資金	¥18,000	24		下期750円×24名
	地区奉仕プロジェクト資金	¥12,000	24		下期500円×24名
	RYJEM維持協力金	¥2,400	24		下期100円×24名
	ロータリーの友	¥39,600	24		1号275円×24名×6か月
	合計	¥476,592			
寄付・援助等	米山記念奨学会寄付	¥408,000	24		1人17,000円×24名 ※年次目標
	国際ロータリー財団寄	¥643,680	24		年間180ドル×24名 年次基金150ドル、ポリオ基金30ドル
	その他寄付		24		
	小計(寄付)	¥1,051,680			
例会費	例会費	¥168,000	24		1回500円×2回×24名×7か月 ※例会場への支出
	地区主催会議費	¥0			
	会長・幹事会費	¥40,000			下期2回 会長・幹事2名分×10000円×2回
	例会用品				
	他RC訪問費	¥50,000			会長・幹事 メーキャップ補助
	その他会費				
	小計(例会費)	¥258,000			
委員会活動費	クラブ管理委員会				
	親睦委員会	¥50,000			夜間例会イベント
	プログラム委員会	¥30,000			卓話者謝礼・交通費
	SAA	¥30,000			例会運営費 ※ハイブリッド例会のため、オンライン対応費として
	会員増強委員会	¥10,000			会員増強費
	公共イメージ委員会				
	DX推進関係	¥115,500			ホームページ作成・管理維持 月額16,500円×7か月
	すまっぼん	¥3,850			月550円×7か月
	奉仕プロジェクト委員会				
	ロータリー財団	¥14,900			グローバル補助金 100ドル
	米山記念奨学会	¥0			
	職業奉仕	¥0			
	社会奉仕	¥0			

科 目		前年度実績	25-26年度予算	人数	前年度差異	備考欄
委員会活動費	国際社会奉仕		¥0			
	青少年奉仕		¥0			
	小計(委員会活動費)		¥254,250			
事務諸費	事務所賃貸料		¥0			会長または幹事の企業を事務局とする(持ち回り制度)
	通信費		¥10,000			サーバー代 等
	事務員報酬		¥0			
	事務用品費		¥10,000			
	事務局旅費		¥5,000			
	接待交際費		¥0			慶弔費等
	福利厚生費		¥0			
	雑費		¥10,000			
	小計(事務局)		¥35,000			
記念行事準備金積立			¥168,000	24		月額1,000円×24名×7か月
その他	予備費		¥10,000			
支出合計			¥2,253,522			

2025年12月～2026年6月

<収支差引>

科 目		前年度実績	25-26年度予算	人数	前年度差異	備考欄
収支差引		¥0			¥0	

特記事項:

- ・ロータリー財団の年次基金、ポリオ基金、そして米山記念奨学会への寄付目標については、月々の会費の中から拠出。このことにより担当委員会は寄付を集めることをせず、事業遂行に専念できます。下半期の設立となりますが、設立時に年次目標100%をしっかりと達成し、他クラブの見本となれるような予算組にしております。
- ・下半期は例会運営に注力したり、ロータリーの知識を新会員へ落とし込む期としていくため、各委員会の活動予算を低く設定しています。